

## 近世京都質屋仲間

竹 下 喜久男

近世京都質屋仲間に関する史料としては、『京都御役所向大概覚書』、『元禄覚書』に收めるものが知られ京都市編『京都の歴史5 近世の展開』も右の史料に拠って記述されている。その後藤田貞一郎氏が同志社大学所蔵の京都質屋仲間についての幕末期の史料五点を紹介された（『社会科学』19 一九七五）。幕末期の史料とはいえ紹介された史料には『質仲間旧記』などが含まれており、近世京都質屋仲間の研究に重要な史料の提供がなされた。

『元禄覚書』によれば、元禄十二年（一六九九）洛中洛外には質屋六二八軒があり、姉小路通油小路西へ入町に借宅して質会所を設け、惣代四人、手代八人、賄一人、下男一人をおき、惣代四人の内一人が交代して会所に詰めることになっていた。その後享保十四年（一七二九）までの主要な動向は藤田氏の紹介された史料で把握することができるが、その後については寛政三年（一七九一）までは十分知れない。

ここに紹介する史料はこの空白の時期について多少なりと知り得るものとしてとりあげた。

史料Ⅰ『明和七庚寅三月 御条目并青陽組之名前写』（堅帳 墨付一四丁）は洛中洛外質屋六一組、同無組のもの、さらに洛外続きの在方の質屋六組のものに対して、これ程多数に上るため申合も行届かず、不取締りとなると

の理由で、これらを一括して二五組、質屋株五五〇軒とし、各組に一年任期の年行事をおき順番に勤めさせ、組内の円滑な運営をはかることを始め質物扱いについて元禄以降触出された主要事項を『御条目』としてまとめたものである。

史料Ⅱ『安永八年己亥正月吉日 質仲間覚帳』（横長帳 墨付一四丁）は明和七年に定められた組の一つ青陽組の年行事を勤めた吉文字屋甚兵衛が安永八年中に年行司として関わった事柄を略記したものである。組内の会合、御用金賦課への対応、冥加銀、株譲渡、会所月行事引継ぎなど断片的ではあるが、質屋仲間運営の内情を知り得る史料である。

史料Ⅲ『安永八年己亥極月吉日 廿組顔付帳』（横長帳 墨付二五丁）は明和七年に定められた質仲間二五組の内洛中洛外の二〇組、四一五軒について、組別に質屋の名前と居所を書き上げたものである。本史料は青陽組の年行事であり、安永八年十二月質会所の月行司をも勤めていた吉文字屋甚兵衛が、月行事を次へ引継ぐために一連の書類とともに質会所へ返したものの控えである。それは自家の勘定帳と思われる帳面の紙背を利用して仕立て筆写している点から窺える。本史料は藤田氏が紹介された安政四年（一八五七）から約八〇年以前の書き上げで、当然ながら人名の多くの出入があり、質屋経営の容易でないことが知れる。

右の諸史料は京都の心学講舎の一つ時習舎の都講として知られる吉田甚兵衛（吉文字屋、定誓―一七九八）家の文書の一部である。

石田梅岩の説く石門心学は門人手島堵庵の活動により画期的展開をみせるが、明和二年（一七六五）京都に講舎五楽舎を定めたのをはじめとして、教勢拡大の拠点として相次いで講舎を設けた。洛中においては、安永二年五条東洞院東入ルに修正舎、同八年五月植村嘉兵衛の助力を得て今出川千本東入ル町に時習舎、天明二年春には河原町

三条に明倫舎を設け、心学教化の上で右の修正舎、時習舎、明倫舎、の三舎は三舎印鑑を発給する権限をもつ家元的役割を担った。また天明四年には伏見街道五条下ル二丁目に恭敬舎を設け、高田四郎兵衛にその運営を委ねた。

その後時習舎には中沢道二を輩出し、明倫舎は上河淇水を舎主として全国的な教化活動を展開することになる。就中中沢道二の中部地方以東への積極的教化活動は注目され、その状況は筆まめな道二から時習舎都講吉田甚兵衛に宛てた書簡により知ることができる。

吉田甚兵衛は時習舎の名都講とされた。心学講舎には都講（惣行司）、輔仁司（次行司）、会友司（常行司）の三役が置かれたが、都講については手島堵庵が次のように説明している。

今都講を定むるは徳と学との撰にあらざ、障さわすくなき人を以て其業とすべし。障とは、君父母にゆるされざる人、家業せはしき人、代りすくなき人、朋友知音少き人、似あはざる人、右五等の類、凡如レ此のさしつかへある人はゆるすべし、輔仁司、会友司もこれに準ずべし、衆皆和睦して私を存すべからず、此三等の人、世に所謂学頭にはあらず、進学の助をなす通達の便宜となさんためのみ（『堵庵全集』一〇四〜五ページ）として学頭ではないが、講舎の諸般にわたる活動を円滑にすすめる要としての立場にあった。

史料Ⅰ

『明和七庚寅三月

御条目并青陽組之名前写』

申渡

洛中洛外質屋共

六拾弍組

近來質屋請証文之改甚猥ニ相成不埒之至ニ候、右者享保十四酉年申渡置候処、年來過候故当時ハ令忘却

右同断

無組者共

洛外統之在方質屋共

六組

十二ヶ月限不相改候故、をのつから不相応之鳥乱成  
質物取候様相成、第一近来ハ質請人不存質物多取候  
段旁不埒ニ付、向後十二ヶ月限ニ置主請人之質請証  
文急度相改取置可申候、質会所之儀ハ紛失物為吟味

申付置、是迄も新規仲ヶ間入之者共江ハ前以申渡候  
趣共年来会所ニ而申聞来候得共、掟迄候様ニ相心得  
候哉、右躰不埒之至ニ候、以来紛失物為吟味之候間、  
向後ハ行事共ニ而若不行届儀も在之候ハ、会所へ其  
段可申出候、会所之もの共も是迄ハ心得違不遂吟味  
も等閑ニ致来候旨申之候間、猶亦此度相改会所之も  
の共江も申渡候間、其旨相心得常々行夏共相互ニ吟  
味合質取方之儀其組々切ニ心得違無之様入念紛失物  
吟味之砌無間違様可取斗候、且又惣質屋共組数多又  
ハ町方在方共無組之ものも在之故、をのつから申合  
も不行届紛失物も知兼候間、吟味取べり之ため町方  
在方打込向後廿五組ニ申付、質屋株五百五拾軒ニ申  
付候間、其旨相心得以来質屋共名前帳面銘々致印形  
質会所へ差出、会所御役所へ差出置品替り増減等  
有之節ハ其度々急度会所へ可申出候、会所御役所

へ名前申出名前印形等相改管ニ申渡、且又人数組建  
之儀者会所之もの共取調へ候上申出候管ニ申渡候  
間、猶吟味之上追而可申渡、以来申合入念可致商売  
候、依而請書申付候事

寅三月

右一同被 仰渡候趣奉畏仲間之もの共へも不洩様私  
共可申聞候、依之御請書奉差上候、已上

寅三月四日

右之通此度被 仰渡候趣一同奉畏候、且又従前々被  
仰渡候趣左之通

一 前々相定候通質物十二ヶ月限たるへき事

一 質物利足之儀ハ其品ニより月壹歩式歩迄相対次第  
ニ候、尤高利を取申間敷事

一 纔之質物ニ而も其度々置主請人証文取之候儀ハ質屋  
共之不勝手、勿論置主請人等も及難儀候由略相聞へ  
候、向後ハ質請証文十二ヶ月を限質物取之可申候、  
尤十二ヶ月之内たり共死失又ハ他国其外品替り候儀  
も在之候ハ、早速証文取替可申候、乍然金貳拾両、  
銀子ニ候ハ、壹貫匁余之質物ハ是迄之通其時之置主

請人相改手形取替可申候、且又質札名所書墨薄く毎度吟味之節質屋之名所難見分々候条入念可申旨、享保十四酉年申渡置候通心得違無之様可致事

一 置主耆人ニ請人耆人ツ、相極メ置主請人互ニ相用申間敷事

一 奉公人自分之宅無之、或ハ同居之もの惣而何屋誰と名乗候本人之外ハ置主請人ニ定申間敷事

一 質請証文有之候置主之名所申之被頼候由ニ而不存もの致持参候質物ハ取申間敷事

但不存ものニ而も証拠として置主之印形致持参候

質物ハ取候而も差構ひ無之候

一 送り質物之儀弥令停止候、然共享享保十四酉年申渡置候通置主請人等江も其訳申聞後日無違乱様ニ証文為取替、当分之人替ニ取組候儀ハ制外ニ候、尤質会所へ渡置候定書之趣相守、会所押切印形通帳を証拠として可致通用事

一 諸商人商売躰之代口物当分入替と名付、或ハ売切之仕方ニ而質物ニ取候儀ハ紛數候ニ付、質屋共入替質物同様ニ相改押切印形通帳を以取遣為致候様、宝曆

九卯年会所へ申渡置候趣相守可申事

但右両様入替質物之儀近年猥ニ相成会所へ不相届内分ニ而致取遣候もの之旨相聞へ不埒ニ候、向後ハ互ニ吟味合逐一会所へ相届改請可申候、若無其儀内分ニ而致取遣候もの之候ハ、吟味之上其品不殘可取上候

一 絵付絵はぬひ之類、又ハ裁地染表小道具不揃もの其外諸職人請取物らしく相見へ候分、一切質物ニ取申間敷事

一 糸質物之儀延享四卯年并宝曆元未年申渡置候通弥相守可申事

一 貸物屋共損料貸代口物之儀去々子年相極メ候目印シ之印形明白ニ相見へ候代口物ハ勿論、貸物らしく相見へ借り主共手段之品ニ而ハ無之哉得と相糺、其分ハ質物ニ取申間敷事

一 此度質株相定候上ハ質株相続或ハ他人へ譲り替等之節会所添証文を以印札可致通用事

一 此度申付候質屋式拾五組行吏之儀耆々年を限相退、仲ヶ間之者順番ニ相勤可申候、尤諸事会所へ及相談

二質屋共不勝手成義無之様一同申合和順二相勤可申事

一質請証文年号月日を記シ不置掛り合出来候節俄二書入候族も在之、且又質物取候当座二置主江質札不相渡質取候もの有之由略相聞へ候、以来相改右跡之儀致間敷事

一吟味之品質物二取置候節質会所へ差出候儀ハ勿論、たとへ吟味不申付候品二而も怪敷儀在之候ハ、早速会所へ可申出事

一紛失物等吟味之節質会所も触書差出候ハ、質屋共無遲滞相廻有無返答日限之通会所へ可申出事

一会所為諸入用質屋共出銀之儀ハ前以定置候通質屋老軒の老々月銀式匆宛可差出候、尤是迄之通相心得廿五組行更共取集、毎年六月、十一月兩度共廿一日を限無遲滞差出可申事

一被盜主も質屋触不願出候品ハ会所も触書不差出候故其分ハ時宜二より質屋共直御役所へ差上候二付、是迄ハ会所へ其訳不申届候質屋も有之旨相聞へ候、此度仲々間取り申付候上ハ右跡之儀も不洩様質屋

共ハ会所へ可申届事

一会所も質屋共へ申達候儀ハ急成用向も有之事二候間、会所も申遣候刻限遲滞無之様可罷越事

一質屋之外印札無之質取候もの之在之候ハ、早速会所へ可申出候、質屋共乍存其分二差置申間敷事

一質商売相止候ハ、其訳会所へ申届印札之儀差図次第二可致事

右之趣一同奉畏候、組々相互二申合入念商売可仕候、此度質屋株御定被成下候二付、銘々左二御請印形奉差上候、以上

明和七年寅三月

(以下原文は一段連記)

北組

丸屋六兵衛 敦賀屋弥兵衛<sup>き</sup> 丹波屋忠右衛門 丹波屋甚兵衛 丸屋四郎右衛門 万屋重次郎 平野屋茂兵衛 蝶屋市兵衛 菱屋市右衛門 越後屋喜左衛門 松屋福七<sup>きよ</sup> 鍵屋茂兵衛<sup>庄兵衛</sup> 木屋太四郎

中組

伏見屋六右衛門<sup>直松</sup> 播磨屋又兵衛 丸屋伝兵衛

安永八亥十月印札会  
所へ上ケ切

蝶屋作兵衛 蝶屋三郎右衛門

菱屋清兵衛

左衛門

井筒屋庄兵衛 越後屋弥七 蝶屋利

兵衛

彦太郎

能勢屋太兵衛 丸屋吉兵衛

南組

深江屋半兵衛

鍵屋吉兵衛

玉屋吉右衛門

美濃

屋長兵衛

菊屋庄右衛門

吉文字屋甚兵衛

俵屋

平次郎

山本屋庄左衛門

槌屋九右衛門

綿屋庄

左衛門

鱗形屋忠兵衛

菊屋庄兵衛

榊屋四郎兵衛

綿屋三郎助

史料Ⅱ

表紙

『己 安永八年

質仲間覚帳

亥 正月吉日』

裏表紙

『青陽組年行夏

吉文字屋甚兵衛』

近世京都質屋仲間

亥正月五日

○ 九拾文 半紙五折

一 四百五拾文 片折三帖

ノ 五百四拾貳文 五辻 越後屋喜七

亥三月二日払扣

戌十二月廿二日

○ 八匁壹分 年行事付替へ砌入用

此錢七百八拾三文扣

右ハ朝五ツ時を参り旅宿津屋ニ而 尤酒肴中飯有  
麻上下着シ東御役所小玄關江出

此月世話亥年之十二月行事役兩人ニ而相勤申候

戌十二月廿七日

一 銀百五拾匁 質会所

右当亥六月出銀之節引落シ遣シ申候 相对則一札取

置申候

亥六月廿三日

利銀九匁 元利共

出銀之内ニ而引落相済申候 則一札相戻シ申候

右ハ当亥極月出銀之内ニ而引落シ遣シ申候 相對則

一札取置

亥四月五日

亥十一月廿二日

○ 拾壹匁宛 参会諸借用

利銀七匁五分 元利共相済 則一札相戻シ

右三月廿三日 双林寺閑阿弥ニ相勤被申候

○ 壹匁六分 質会所へ年始祝義トして金貳百疋遣

亥正月より七月迄

ス

○ 金子百疋 触書筆料

△ 銀拾四匁九分九厘 仲間加入銀貳拾九軒分請取

代十五匁四分

○ 銀貳両 返答書同断

六月廿二日

○ 壹匁七百文 久助扣

○ 五拾四文 半紙三折

代拾七匁三分四厘

一 出銀六匁貳拾九軒分 百七拾四匁去ル九月出銀

先納之内請取 残六匁宛仲間中取集会所表江相渡シ

△ 六拾八匁壹分六厘

六ヶ月分請取書取申候

入拾四匁九分九厘 加入銀

一 先納銀一札之裏ニ内請取書取置申候事

差引 残五拾三匁壹分七厘

此錢五貫貳百拾貳文

亥七月六日

貳拾八軒二割

一 銀百五拾匁 質会所

壹軒分百八拾三文宛

利足壹匁

右仲間取扣算用仕取集相済申候



亥七月十一日

十月十六日

○ 三百文

同九日夜寄会座鋪代 満藏院ニ而茶代

共

○ 又五拾文

同久助遣ス

亥十月廿八日

樋谷伊予守西御役所より御用

○ 銀拾匁壹分五厘

金被為仰出 村田文藏様御懸

右式拾九軒分

リニ而 三百兩被仰付、兩三

度寄合 御断申上候処其儘ニ

而相済

寄合入用ノ百匁四厘 六ノ六百廿式文

内式拾匁五分式厘 四百五十毫文

引残百四拾匁匁分式厘

仲間四百拾軒ニ割老軒分三分五厘宛

月行事 住吉組 播磨屋又兵衛

富士組 江戸屋六左衛

門

亥十一月廿三日

一 出銀六匁宛 式拾八軒分取集 百六拾八匁也

尤百六十八匁ハ仲間先納銀之内江請取 一札之裏ニ

請取書取置申候 六匁宛廿八軒分会所表へ相渡し六

ヶ月分請取書取申候

亥十一月晦

一 銀百五拾匁 質会所へ

利壹ぶ 子六月廿日仲間中ノ割合せ請取申候 請

取書仲間へ渡シ置

右ハ来子六月出銀 菊庄へ寄銀之内ニ而引落シ申

候筈 会所菊庄相對之上会所ノ一札取置申候以上

廿八軒ニ割老軒分五匁三分六厘 此高—— 残廿

七軒分百四十四匁六分四厘請取

○ 金子百疋 触書筆料

代拾五匁三分式厘

○ 銀貳兩 返答書同断

○ 五分 卷紙代

○ 卷ノ四百文 久助扣 十四度

○ 銀八匁八厘 行事付替へ砌当組月行事ニ付鍵屋

佐助方ニ而諸入用

○ 印分

ノ四拾貳匁六分五厘

錢壹ノ七百五拾文

代拾七匁五分

合六拾匁壹分五厘

此錢六貫百三拾七文

貳拾七軒二割

壹軒分貳百貳拾七文ツ

右之通仲間取集算用相済申候

亥極月廿五日

(一丁半余白)

行事交代之儀明廿二日ト五ツ時罷出候様被仰渡候間

右刻限ニ神泉苑町鍵屋佐助方ニ御出可被成候、以上

右之通承知仕候 印

戌十二月廿一日

質会所

吉もんじ屋

甚兵衛殿

右之通申参り承知印形取之申候、則廿二日ニ五ツ時

分参り、亭上下印形持参いたし、顔合名代か自身欵

之儀ヲ相糺、貳拾人相揃候得ハ御酒被出申候、四ツ半

時ニ会所付添東御役所小玄関へ出、すくニ中飯出申候

亥年行事割、組割之書付出銘々写之申候但シ小者人、印形

持参いたし候へ共入不申候事、帰リニ会所挨拶ニ立寄

候事

会所方佐々木正蔵 伝八

戌極月行事

富士組 まつや勘兵衛

住吉組 布屋藤助

以上

一行事付替へ相済候へハ直ニ触書世話仕候事

一正月会所年始為祝義御酒進上申度候由廻文参り候へ

共、断ヲ申参り不申候処、貳拾人之内五人程御出被

成候様承申候、困窮之会所故余り御気毒ニ思召被成

候由、三月会席ニ而御咄被成候故御相談之上右為御

挨拶ト金子貳百足会所ヘ貳拾人行更ヨリ遣シ申候事  
一貳拾人年行事三月参会之覚

廻状写

例年之通来廿三日於双林寺閑阿弥御参会相勤申候  
間、乍御苦勞正四時御出席可被下候、以上

三月

行更

蛭子組 鍵屋治郎右衛門

扇子組 井筒屋長右衛門

各々様

但シ連名書記シ

廿三日双林寺ニ而月行更下袴ニ羽織ニ而袴組ニ二人  
ツ、取持人、但シ行事当人之外ニ参り、先茶菓子御  
酒、汲物壺ツ出、昼小付膳、わん之上酒貳献、舞子  
貳人参り、御酒ニ而賑々鋪事也、夕かた本膳、わん  
之上御酒三献ニ而膳ヲ引、後段吸物、御酒、殊之外  
長座之由承候、下拙少々心悪ク、夜五ツ時分断申罷  
歸り申候、迎之小者ニも茶漬出申候、諸入用ハ別ニ

写シ置候

青陽組三月参会

是迄すみ屋喜兵衛宅ニ而相勤来り候所、料理方篋抹  
之由組内ニ御申被成候御方御座候ニ付、席ヲ替へ度  
候様度々承候、角屋喜兵衛度々行事方参り相頼候ハ、  
何卒宜敷様御申被下、相不替被仰付被下候ハ、忝奉  
存候、当御仲間之儀ハ古キ御得意ニ而御座候得ハ何  
とも敷ケハしく奉存候、悪敷儀御座候ハ、如何様ニ  
なり共、奉仕候様段々相頼申候故、三組御行更様へ  
も右之段相頼其上下拙も左様之趣申入候得共、最早  
魚屋方へも誂へ有之由御申、先此度ハ外ニ而相勤、  
秋よりハ如何様とも思召次第之由被仰、甚以角屋方  
へ氣毒ニ奉存候得共三本ニ而相勤被成候  
座敷ハ三本木久丸ニ而

三組行事

東組 播磨屋又兵衛

北組 鍵屋茂兵衛

南組 俵屋平治郎

三月廿六日也 此日殊之外風雨ニ而帰リ之砌難儀仕候

株譲り覺

新規仲ヶ間入 竹屋町通堀川東へ入

柴屋いく

讓主

富士組之内

近江屋太郎兵衛

右質株并質物共讓請之儀質会所へ申入、私組内尋合も相濟滯儀無御座候、各様御組若差支之儀有之候ハ、明後廿六日迄ニ御申聞可被成候、右日限過候ハ、当組へ加入為致候間左様ニ御心得可被下候以上

三月廿四日

富士組年行支

江戸屋六左衛門

青陽組年行事

吉文字屋甚兵衛様

右加入銀惣仲間へ五枚当組割

右ニ写シ有之

当組九月参会

三月ニ参会三本木ニ而有之候得共、甚遠方故勝手も悪敷由御申被遊候方も御座候得ハ、三組御行事御相談仕候上ニ而角屋喜兵衛も度々頼ミニ参リ被申候、又々角屋喜兵衛宅ニ而御参会相勤被成候様ニ相成申候

九月廿六日

行支

南組 槌野九右衛門

東組 蝶屋三郎右衛門

北組 丸屋六兵衛

右之通先御行事様へ御相談仕候処御承知之上

但シ年行支ハ参会入用、仲間諸入用相除ヶ申候、会所出銀ト御冥加銀ハ出銀いたし申候

一 十月六日村田文藏様ハ会所年番之内月行事付添御

宅へ参リ候様申来リ、同日夜御出被成候処、西御役

所榎谷伊予守御用金質屋供へ被為仰付候趣御座候、

此度金子壹両ツ、も被仰付候筈之所、惣質屋式拾組

へ金子三百両被仰出候、此儀も未夕御登被成間もな  
く候得共、御勝手向悪敷御取続被成兼候間、其分  
皆々江申間候様被仰付候、則七日暮早々〆押小路釜  
座角円重寺ニ而廿組行事寄合御座候所、先銘々組内  
へも相談仕候様ニ而退出仕候

一同九日満蔵院ニ而当組寄合仕候、皆々御多分之御了  
管ニ而御座候

一同十六日円重寺寄合、十六日迄ニ会所へ向御催促早  
竟纔之儀彼是寄会いたし不申御用達申候様被仰下候  
得共、会所申候ハ多人数之儀ニ御座候得ハ皆々銘々  
組合へも相談之上又寄会、其上ニ而御答申上候義ニ  
御座候得ハ、及延引候段御用捨可被成下と申上候、  
右之趣色々相談仕候上、先々御断可申上候由申候、  
乍併極意之所如何いたし候哉と申、凡金百両斗ニ而  
相済度候、先御断会所を遣シ可申候様相究申候

月行事ハ又々其後御出可有之旨御申被成候、会所  
御断ニ遣シ候訳ハ、御用金之儀仲間多人数故、未相  
談相究不申、余り延引仕候故会所参り寄合之上ニ御  
咄シを申呉候様申付候、質屋共近年銭相場下直ニ付、

殊之外質屋共困窮仕罷在候故御断申上度候様申候ト

右之趣申上候所、左様ニ彼是かさ高なる儀ニ而ハ  
無之候、質商売いたし候者身分ニ老軒ニ漸三百足程  
之金子出来不申候儀ハ有間鋪候、併左様ニ度々寄合  
致、かさ高ニてハ役所之御名出候儀、左様儀ならハ  
寂早宜しく由御仰被下候、右之通を月行事江向会所  
咄申候

一同廿一日三条通堀川東へ入町北かわ児葉師ニ而寄  
合、右会所村田氏江参り候訳月行事御咄シ被成候、  
何も氣之毒なる様子ニ御座候へ共、先致方も無御座  
候故其儘ニ而差置申候事、其席を開帰り候

一月行夏始而村田氏江御出被成候節、肴代トし而金  
子貳百足御持参被成候へ共、御志之段泰奉存候得共  
請之候而ハ相済不申候由御戻被成御行夏ニ御預り御  
座候所、極月ニ寒中為御見舞御遣被成御請被成候事  
一 右挨拶として金貳百足会所へ遣シ候事

#### 十月行事

富士組 江戸屋六右衛門  
住吉組 はりまや又兵衛

右寄会入用前ニ写シ置候、当組内へも三組御行夏  
以右之訳を申通シ被下候様ニ申参候事

質物御改会所

右ハ十二月八日ニ持参いたし申候

一 十二月行事付替へニ付、会所より紙面参る、左之  
通

行事交代之儀申上候間、来子年行事名前書別紙之  
通御認、来十日迄ニ御差出シ可被成候

但例年共及月迫候間、早々御差出可被成候以上

亥十二月五日

質会所

青陽組年行事

吉文字屋甚兵衛殿

口上書

一 当組年行事今月来子十二月迄菊屋庄右衛門江為  
相勤申度候間、此段会所宜御申上可被下候、以上

安永八亥十二月

青陽組年行事

吉もんじや甚兵衛印

一 会所切紙参り申候、左之通

行事交代之儀明廿二日五ツ時罷出候様被仰渡候間、  
乍御苦勞御同道神泉苑町かぎや佐助方迄御出被成候  
而御世話可被成候、以上

亥十二月廿一日

質会所

月行事

吉もんじや甚兵衛殿

藤屋瀬兵衛殿

同廿二日弁天組藤屋瀬平殿へ向参り、同道ニ而会所  
へ立寄、鍵屋左助方江参り世話仕候、但シ羽折ニ而  
宜敷御座候事

月行夏割、年行事名前、但シ子年

右書付式拾枚会所より持参いたし御銘々ニ遣候事

子年月行事写

正	霜	蛭子	富川殿大町目 山村や吉右衛門
二	極	扇子	大仏本町四丁目 高嶋屋五兵衛
		常盤	鍵屋清治郎
		宝珠	紅屋又兵衛
三		養老	龜屋久兵衛
		初寅	かゝ屋彦三郎
四		末広	龜屋八左衛門
		烏帽子	円屋与左衛門
五		高砂	近江屋平三郎
		毘沙門	龜屋六右衛門
六		中庸	奈良屋作右衛門
		老松	越前や利兵衛
七		大黒	近江屋五兵衛
		布袋	若さ屋佐兵衛
八		住吉	綿屋市兵衛
		富士	津国や仁兵衛
九		福寿	鍵屋治兵衛
		蓬来	ひしや甚兵衛

十 青陽 菊屋庄左衛門

弁天 越後屋又治郎

右之通ニ御座候

則四ツ半時東役所小玄関へ出付替へ相済申候、中飯  
出給仕人鍵屋と仕候事、供子者人数を書付候事、帰り  
ニすくニ鍵屋入用請取候事、又会所江挨拶ニ立寄候事  
同廿四日算用書廻シ申候

覚

九拾刃 飯代式十五人 但シ会所三人共

五拾六刃九分 諸入用 酒肴

式刃式分 集人足料紙代共

ノ百四拾九刃壹分

右式拾五人割

老入前六刃七分八厘ツ、

一 廿刃八分 御供飯代 十六人

右十六人ニ割

老入前壹刃三分宛

右之通取集鍵屋方江払、月行事帳面ニしるし置申候

月行事

弁天組 ふじや瀬平

青陽組 吉文字屋甚兵衛

但シ月行支之組に飯代之割出候事

口上

昨廿二日年行支付替へ御座候ニ付、東御役所へ被為

召出候而、菊屋庄右衛門様江行事付替へ相済候間、

乍御苦勞御勝手ニ御挨拶御出可被遊候、右之趣得貴意

度如斯ニ御座候、以上

十二月廿三日

行支 吉もんじや甚兵衛

各々様

右之通当組へ相廻シ申候事

一 当極月行事当組相当り候ニ付、去ル極月行事御勤

被成候方江聞合ニ参候処

日暮下立売上ル

富士組 松屋勘兵衛

右質会所へも当月行事ニ相当り候間、何角御頼申上

候趣挨拶ニ参候

御冥加銀配符算用書廿組行支方江遣申候趣左之通

口上

御冥加銀老軒ニ付六匁四分ツ、御集被成、来ル十五

日迄二月行事方へ御持参可被下候、以上

亥十二月

月行事 弁天組 ふじや瀬平

何組年行事 何屋誰様

廿組顔数

ノ四百六軒

但シ老軒ニ付 六匁四分宛

都合 貳貫五百九拾八匁六分

内老匁貳分かへ引

貳貫五百八拾目上納銀

但シ銀六拾枚

三匁五分 入目封代

尤武者小路室町東へ入

本両替 舛屋庄兵衛

但シ五百目ツ、ニ封



藤屋瀬平ニ預り置

引残拾三匁九分有

内式匁八分 集人足料 ふし瀬平渡

残拾壹匁壹分有

当式拾組行事箱へ入置

弁天組年行支

藤屋瀬平殿

青陽組年行事

吉文字屋甚兵衛殿

此外十八組年行事中

一 極月廿六日御冥加銀上納ニ付、昼より参る、尤上

下持参致候得共下袴ニ羽折着ニ而宜舖候、藤屋瀬平様  
子息同道仕会所へ向参り、会所正藏付添出東御役所御  
ろうか迄出納、此日会所御ひいき江納申候、尤印形持  
参致候へ共入不申候、銀子会所へ持参致右之通請取廿  
組年行事江順々ニ相廻シ申候、以上

覚

一 銀子六拾枚

但し封印之儘

右ハ東御役所江被差上候冥加銀当亥年分慥ニ預り置  
候、以上

安永八年亥十二月

質会所印

一 当組年行事帳箱極月廿六日菊屋庄右衛門殿へ相渡  
し申候  
一 子正月四日惣仲間廿組箱次へ左之通帳面しるし相  
渡し申候  
月行事渡帳写

覚

一 證文箱入 四通

一 会所為替證文 壹通

一 御請書 式通

一 御触書写帳 壹冊

一 仲ヶ間廿組掟書 壹冊

一 同顔付帳 壹

一 金銀入帳 壹

一 諸払帳 壹

一 国柄模閉帳 壹

一 半紙帳 六冊

一 右之外諸書付三括り袋入

一 帳箱之鍵 札付

一 銀拾三匁壹分宛 二包

一 錢 百三拾文

子正月 弁天組 ふしや瀬平

青陽組 吉もんじや甚兵衛

蛭子組 山村屋吉右衛門様

扇子組 高嶋屋五兵衛様

右為持遣候節手紙認メ与兵衛ニ為持遣シ申候、以上

(以下亥年分久助へ諸払書き上げ一丁半分省略)

史料Ⅲ

表紙

『己 安永八年

廿組顔付帳

亥 極月吉日』

裏表紙

『亥極月行支

青陽組 吉文字屋甚兵衛写』

富士組

一条通知恵光院西へ入

同町

和泉屋清兵衛

金紙屋吉左衛門

知恵光院一条下ル町

裏門上長者町下ル

錢屋嘉兵衛

嶋屋新左衛門

下長者町浄福寺東へ入

土屋町出水上ル町

菱屋藤兵衛

伊勢屋与市

出水土屋町東へ入

千本出水下ル

菱屋伝五郎

小松屋甚兵衛

土屋町出水上ル町

下長者町千本西へ入

菱屋源兵衛

菱屋忠助

日暮下立売上ル町

葭屋町下立売上ル町

松屋勘兵衛

浜田屋弥右衛門

下立売日暮東へ入

同町

丸屋平兵衛

菱屋惣兵衛

改庄五郎

下立売日暮西へ入

松屋忠兵衛

出水松屋町角

伏見屋又兵衛

日暮榎木町下ル町

近江屋源治郎

同町

松葉屋半四郎

油小路丸太町下ル

越後屋清右衛門

大宮出水上ル町

丸屋市兵衛

日暮通下立売下ル町

丹波屋清蔵

葭屋町出水上ル

桔梗屋太助

下立売堀川西へ入

菱屋平兵衛

日暮下立売上ル町

大黒屋甚七

日暮丸太町下ル町

富田屋長兵衛

大宮出水上ル町

松屋甚左衛門

下長者町日暮角

津国屋仁兵衛

黒門通出水上ル町

帯屋五兵衛

猪熊出水上ル町

北村屋利兵衛

日暮下長者町上ル

菱屋茂兵衛

下立売堀川西へ入

伏見屋久右衛門

いの熊下立売上ル町

葉屋庄之助

同下立売下ル町

近江屋仁兵衛

同町

丸屋伊兵衛

小川下立売下ル

柿屋万右衛門

小川榎木町下ル

ふしや新右衛門

猪熊丸太町上ル

桔梗屋伊兵衛

猪熊下長者町下ル

金原屋喜右衛門

日暮通榎木町下ル町

紀伊国屋治兵衛

良兵衛

改ノ四拾六軒

住吉組

西京上之町

同榎木町下ル町

坂本屋仁左衛門

葭屋町下立売下ル町

江戸屋六右衛門

油小路下立売下ル

鮎屋庄七

東堀川下立売上ル

木屋長左衛門

大宮丸太町上ル町

井筒屋久兵衛

日暮下立売下ル町

舂屋弥太郎

竹屋町堀川東へ入ル

柴屋いく

萬屋金右衛門

八文字屋半兵衛

葭木町上立売下ル

戌亥町

右同町

同町

能勢屋太兵衛

萬屋十治郎

吉文字屋七兵衛

菱屋六兵衛

伊佐町

東社町

右同町

妙心寺南門前

丹波屋甚兵衛

鍵屋茂兵衛

綿屋市兵衛

布屋藤助

同 吉兵衛

舛屋誓月

北野西今小路町

六軒町五辻上ル町

鱗形屋忠兵衛

綿屋庄左衛門

鍵屋太郎兵衛

播磨屋又兵衛

安居院中之町

小川上立売上ル

鷹峰光悦町

中立売通千本東へ入

丹波屋忠右衛門

蝶屋利兵衛

松屋新九郎

丹波屋利兵衛

同今出川上ル

菊屋庄兵衛

改ノ拾軒

伏見屋直松

今出川堀川西へ入

青陽組

越後屋弥七

蝶屋三郎右衛門

菱屋清左衛門

丸屋六兵衛

播磨屋又兵衛

美の屋長兵衛

深江屋半兵衛

葵屋市右衛門

綿屋三郎助

玉屋吉右衛門

敦賀屋さき

改弥兵衛

俵屋平治郎

槌屋九右衛門

丸屋吉兵衛

木屋太四郎

吉文字屋甚兵衛

菊屋庄右衛門

丸屋吉兵衛

松屋福七

松屋福七

丸屋吉兵衛

丸屋吉兵衛

丸屋吉兵衛

改ノ廿九軒

弁天組

室町一条上ル

坂本屋藤兵衛

室町一条上ル

橘屋治兵衛

上御靈上之町

堺屋与兵衛

上御靈前通内構町

沢屋伝兵衛

改ひさ

右同町

井筒屋清右衛門

武者小路室町東へ入

藤屋瀬兵衛

上立売堀川東へ入

八文字屋藤兵衛

今出川堀川西へ入

油小路一条上ル

越後屋文治良

今出川新町東へ入

富士屋庄右衛門

新町上立売上ル町

平野屋孫兵衛

室町頭柳原上辻

井筒屋七右衛門

烏丸今出川上ル式丁目

木屋助十良

室町上立売上ル

堺屋四郎兵衛

上立売小川東へ入式丁目

坂本屋権兵衛

安居院筋違橋町

藤屋徳兵衛

室町中立売下ル

伊勢屋伊兵衛

室町上立売上ル

坂本屋惣七

武者小路室町西へ入

近江屋五兵衛

改ノ式拾式軒

新加入

川原町丸太町上ル町

木屋新右衛門

高砂組

寺町通今出川下ル

大黒屋太左衛門

今出川寺町西へ入

菊屋又兵衛

今出川御輿町

笹屋清右衛門

幸神町寺町西へ入

加賀屋四郎兵衛

三文字屋吉右衛門

新町通道正町西南半町

堺屋惣兵衛

新町一条上ル

近江屋吉兵衛

上御靈内溝町

越後屋彦右衛門

石薬師寺町西へ入

野口屋久右衛門

右同町

伊勢屋八右衛門

今出川柳風呂町

布屋庄右衛門

梨子之木町今出川上ル柳

風呂町

近江屋甚兵衛

上寺町筋違橋不動前町

小松屋忠右衛門

右同前

永原屋甚兵衛

同通寺町東へ入

木屋久兵衛

今出川出町

丸屋七兵衛

今出川立本寺跡式町目

堺屋安兵衛

改メ拾八軒

末広組

一条黒門東入

柊木屋四郎兵衛

一条松屋町東へ入

松葉屋町権兵衛

浄福寺一条下ル

上御霊馬場何上東半町

木屋市兵衛

鞍馬口寺町西へ入

越後屋三右衛門

今出川立本寺跡

近江屋平三郎

川東百萬遍前町

綿屋半兵衛

鞍馬口寺町東入二町目

木屋六兵衛

綿屋又兵衛

中筋浄福寺東へ入

菱屋太左衛門

浄福寺一条上ル

丸屋宇兵衛

出水通室町東へ入

十一屋勘五郎

烏帽子組

高倉夷川上ル町

名荷屋みゑ

衣棚二条下ル

亀屋喜右衛門

烏丸竹屋町下ル

那波屋治良左衛門

高倉御池上ル

千丸屋吉良兵衛

柳馬場二条下ル

熊野屋安右衛門

佐野屋忠兵衛

笹屋町知恵光院西へ入

亀屋八左衛門

中立壳浄福寺西へ入町

伊勢屋庄七

改メ拾壹軒

烏丸御池上ル

岐屋六右衛門

東洞院御池下ル町

越前屋たい

烏丸丸太町上ル

具屋忠兵衛

烏丸御池上ル

團屋与左衛門

六角御幸町角

近江屋忠兵衛

烏丸丸太町上ル

竹屋町烏丸西へ入

河原町丸太町上ル

新樫木町丸太町下ル

錢屋庄兵衛

三文字屋儀三郎

龜屋六右衛門

山崎屋津祢

室町夷川上ル

室町竹屋町上ル

改ノ八軒

和久屋嘉兵衛

泉屋与兵衛

烏丸夷川上ル

東洞院竹屋町上ル

宝来組

金屋庄八

平野屋新兵衛

油小路二条上ル

同通夷川上ル

堺町丸太町下ル

東洞院錦上ル町

龜甲屋治郎兵衛

博多屋清七

綿屋市治郎

井筒屋十三郎

同通御池上ル

同町

室町樫木町上ル町

譲り替へ 大文字屋勘右衛門

菱屋甚兵衛

播磨屋儀兵衛

八文字屋庄藏

扇子組加入

油小路三条上ル

小川通二条上ル

改ノ式拾軒

俵屋龜松

橘屋むめ

笹屋治兵衛

毘沙門組

河原町夷川下ル

新樫木町丸太町下ル町

釜座通二条下ル

三条通釜座西へ入

笹屋三右衛門

津国屋平左衛門

相模屋治兵衛

蛭子屋新兵衛

河原町竹屋町上ル

河原町丸太町上ル二丁目

油小路二条下ル

同小路通東洞院東へ入

丁子屋七兵衛

吉文字屋吉郎兵衛

和泉屋嘉兵衛

葉屋善兵衛

河原町二条上ル町

御幸町丸太町下ル

二条通小川東へ入

衣棚通二条上ル

檜皮屋治郎兵衛

錢屋善七

はり満屋与市

玉水屋三郎兵衛

麩屋町通竹屋町下ル町

釜座通下立売上ル町

豊田屋兵藏

大津屋庄助

西洞院下立売上ル

同六角下ル

榊屋源七

松屋庄左衛門

同通御池上ル

釜座通丸太町上ル

三文字屋源右衛門

伊勢屋やな

新鳥丸夷川下ル

釜座通二条下ル町

伊勢屋利兵衛

大黒屋源助

新町二条上ル町

上長者町新町西へ入

海老屋彦三郎

十一屋勘兵衛

改ノ式拾四軒

福寿組

高倉三条下ル

同通御池下ル

伊勢屋弥治良

金屋新兵衛

同通二条下ル

同通御池下ル

同 茂兵衛

栢屋四郎兵衛

下立売通新町西へ入

烏丸六角上ル

橘屋茂兵衛

二文字屋仁右衛門

同蛤葉師下ル

四条通高倉西へ入

大舛屋徳兵衛

丑六月譲り 伊勢屋政之助

柳馬場御池上ル

間之町夷川上ル

紀伊国屋新治良

橘屋作治郎

室町三条上ル

二条通柳馬場東へ入

鍵屋治兵衛

笹屋治郎兵衛

烏丸通三条上ル

御幸町通夷川上ル

伊勢屋弥太良

七文字屋又七

間之町通夷川上ル

四条通高倉西へ入

井筒屋嘉一良

いせ屋利兵衛

麩屋町通三条上ル

東洞院二条上ル

高宮屋茂兵衛

井筒屋嘉兵衛

室町通夷川上ル

東洞院二条上ル

大舛屋忠兵衛

鶴屋治良右衛門

木屋町通三条上ル

四条通川原町東へ入

栢野屋久兵衛

三栖屋弥太郎

四条通川原町西へ入

川原町通四条上ル

銭屋善助

越後屋治良兵衛

御幸町御池下ル町

二条富小路東へ入町



海老屋伊兵衛

本屋四郎右衛門

越後屋源兵衛

富山屋新兵衛

衣棚通二条上ル町

御幸町御池下ル町

同通三条下ル町

烏丸姉小路上ル

美濃屋源右衛門

西村屋重助

菱屋弁蔵

越後屋孫七良

間之町御池下ル町

富小路通四条上ル町

同三条下ル町

錦小路東洞院西へ入

日野屋宗兵衛

俵屋幸右衛門

同 利助

錢屋仁兵衛

改ノ三拾軒

東洞院蛸薬師下ル

綾小路東洞院東へ入

鍋屋いつ

炭屋吉右衛門

養老組

車屋町夷川上ル

衣棚丸太町上ル

麴屋町四条下ル

錦小路烏丸東入

越後屋甚蔵

同 万右衛門

桔梗屋小兵衛

八文字屋市郎兵衛

境町夷河上ル

東洞院四条角

河内屋きん

いせ屋勘兵衛

白木屋清右衛門

大津屋吉右衛門

四条烏丸西へ入

新町三条下ル町

高倉通三条下ル

境町三条上ル町

菱屋権右衛門

越後屋弥兵衛

永楽屋正助

白木屋太良右衛門

東洞院四条下ル町

釜座御池上ル町

堺町蛸薬師下ル町

烏丸三条上ル

山形屋利兵衛

丹後屋恒治郎

越後屋多助

井筒屋治兵衛

烏丸竹屋町上ル町

室町通竹屋町上ル町

鯨木辻子

東洞院三条下ル

越後屋伊兵衛

丑九月加入 越後屋仁右衛門

舛屋藤四郎

亀屋久兵衛

改ノ式拾七軒

富小路姉小路上ル

新町御池下ル町

中庸組

三条通堀川西へ入二町目

新三町三条上ル町

綾小路通室町東へ入

富小路通三条下ル

柏屋やす

千切屋太兵衛

丸井屋九右衛門

井筒屋治兵衛

室町通松原上ル

烏丸通松原上ル

姉小路通堀川東へ入

蛸薬師通油小路東へ入

龜屋小右衛門

志水屋小右衛門

久野辺屋五良兵衛

池田屋あさ

万寿寺通烏丸東へ入

室町綾小路下ル町

三条通堀川西へ入

四条通堀川西へ入

柏屋彦四良

近江屋又右衛門

灰吹屋又右衛門

桔梗屋七兵衛

高倉通松原下ル町

新町通四条下ル町

堀川通綾小路下ル

高辻通堀川東へ入

志水屋ひさ

槌屋庄兵衛

藤屋伝右衛門

藤屋善兵衛

室町蛸薬師下ル

油小路通四条上ル

四条通西洞院西へ入

錢屋勘右衛門

錢屋与左衛門

菱屋五兵衛

改ノ式拾七軒

油小路通松原上ル

仏具町町松原下ル

龜屋文治

丸屋宗兵衛

老松組

小田原町五条上ル

油小路四条下ル

油小路三条下ル

大宮御池下ル町

平野屋茂兵衛

山形屋久兵衛

越前屋利兵衛

富山屋彦兵衛

室町松原下ル

綾小路通柳馬場東へ入

猪熊三条上ル

四条猪熊西へ入

帶屋市兵衛

奈良屋作右衛門

釧菱屋源蔵

富山屋七良右衛門

諏訪町通松原上ル

右同町下ル

油小路二条下ル

岩上通三条上ル町

越後屋平右衛門

小嶋屋惣治良

井筒屋八良兵衛

丸井屋利兵衛

大宮三条上ル町

猪熊六角下ル

初寅組

米屋新兵衛

舩屋源助

魅屋町松原下ル

富小路松原下ル

蛸薬師通堀川西へ入

吉江屋五兵衛

木瓜屋治左衛門

越前屋かや

松原御幸町西へ入

東洞院五条下ル町

改ノ九軒

二文字屋九右衛門

舩屋源兵衛

東洞院仏光寺下ル

柳馬場仏光寺下ル

常盤組

境屋清三郎

加賀屋彦三郎

岩神高辻上ル

高辻岩神西へ入

同仏光寺上ル

同町

美濃屋惣五郎

白木屋理兵衛

かぎ屋伊兵衛

槌屋久兵衛

醒井魚店上ル

同五条下ル町

境町松原上ル

仏光寺東洞院東入ル

赤丸屋庄右衛門

近江屋源兵衛

轡屋仁左衛門

十一屋次郎吉

同町上ル

天使突抜松原下ル町

富小路仏光寺下ル

大坂屋勘右衛門

伊賀屋清兵衛

鍵屋清治郎

槌屋庄兵衛

大坂屋勘右衛門

新町高辻下ル

岩神通錦小路下ル

改ノ拾式軒

八文字屋徳右衛門

越前屋新兵衛

大黒屋

中珠数屋町

醒井仏光路上ル

天使突抜式丁目

大黒屋

中珠数屋町

舩屋吉左衛門

丑九月加入 砂子屋政右衛門

間之町七条上ル二町目

中珠数屋町

改ノ九軒

三星屋庄次良

能登屋宇右衛門

同町

同町

萬屋左兵衛

近江屋五兵衛

丸屋彦左衛門

和泉屋五兵衛

東洞院中珠数屋町

不明万年寺下

新町七条上ル二丁目

醒井花屋町上ル

菱屋七兵衛

亀井屋善左衛門

油屋市次良

井筒屋藤五郎

不明万年寺上ル

同

西洞院七条上ル二丁目

西洞院七条上ル三丁目

住吉屋勘兵衛

亀屋幸右衛門

菱屋宇左衛門

綿屋五兵衛

烏丸魚棚下ル

同

七条出屋敷栃屋町

西九条境内下麴屋町

坂本屋作兵衛

同 利右衛門

岩田屋次良右衛門

富田屋九郎右衛門

同

七条烏丸西へ入

明和十<sup>(7)</sup>丑二月八文字屋清次郎へ譲り

能登屋善九郎

長浜屋市兵衛

大宮八条上ル

八条通大宮東へ入

高倉魚棚下ル

酢屋源兵衛

河内屋弥三兵衛

山本屋源右衛門

新加入 近江屋重左衛門

七条出屋敷上番町

大宮松原下ル

改<sup>レ</sup>拾四軒

丸屋源四良

舩屋六右衛門

布袋屋

花屋町新町西へ入

大宮丹波口下ル

大宮松原下二丁目

福山屋平右衛門

池田屋徳兵衛

笹屋庄右衛門

西新屋敷道筋

大宮中堂前之町

油小路七条上ル

東中筋七条上ル

油小路七条上ル

大宮中堂前之町

出口屋甚左衛門

油屋忠兵衛

吉野屋為八

舩屋半兵衛

若宮通北小路角

同通魚棚下ル

大宮通松原下ル町

新町通七条上ル町

嶋屋幸右衛門

桃皮屋善右衛門

新加入七条出屋敷樽屋町

八文字屋清治郎

改 $\times$ 貳拾四軒

天明元丑六月加入花屋町西洞院西へ入

紅粉屋八郎兵衛

扇子組

五条建仁寺町東へ入

大仏鞆屋町青羽橋

丹波屋三郎兵衛

丸屋源太郎

大仏正面高瀬西へ入

東福寺門前

和泉屋たみ

銭屋治右衛門

伏見街道正面上ル

大仏大黒町五条上ル

高嶋屋五兵衛

丸屋茂右衛門

建仁寺町五条下ル町

伏見街道八丁目

布屋忠左衛門

栢屋甚右衛門

五条若宮八幡前

大仏骨屋町

紅屋八郎兵衛

竹屋七郎兵衛

大仏きせる屋町

大仏長刀町

大和屋角兵衛

伊勢屋平左衛門

大仏遊行前

大谷口

河内屋七左衛門

雜魚屋長兵衛

大仏長刀町

七条三宮町

美濃屋孫右衛門

井筒屋長右衛門

同

伏見街道五丁目

油屋庄兵衛

猿屋七右衛門

二ノ宮町七条上ル

伏見街道七条上ル

丹波屋清七

大和屋十藏

大仏瓦屋町

野田屋七左衛門

伊賀屋周藏

野田屋七左衛門

七条高瀬東へ入

野田屋七左衛門

河内屋長右衛門

改 $\times$ 貳拾三町

野田屋七左衛門

新加入 問屋町五条下ル

高瀬川正面上ル町

太刀屋権右衛門

俵屋亀松

蛭子組

上岡崎村

同村

萬屋權兵衛

伊賀屋權四郎

同高畑町

同東分木町

北白川村

三条通寺町東へ入

大坂屋弥右衛門

舁屋徳右衛門

井筒屋三郎兵衛

嶋屋仁兵衛

栗田口中之町

同稻荷町

御幸町三条上ル

川原町蛸薬師上ル

西村屋甚三郎

大坂屋弥四良

藤屋金右衛門

舁屋七兵衛

同分木町

南禅寺領小物座町

二条川東新丸太町

同川東新堺町

俵屋佐兵衛

和泉屋嘉兵衛

同 作右衛門

鍵屋治郎右衛門

建仁寺門前井手之町

同

同新柳馬場

同新富小路

俵屋宇兵衛

萬屋わか

伊賀屋嘉兵衛

山口屋治郎兵衛

同亀井町

同大和町

同新麴屋町

三条大橋東へ入

錢屋主真

近江屋りう

丸屋忠兵衛

柊屋吉右衛門

同下町

宮川筋六町目

二条川東新柳馬場

同三丁目

一文字屋重之助

山村屋吉右衛門

錢屋吉左衛門

布袋屋金治郎

松原建仁寺町東入

建仁寺町松原上ル

縄手三条下ル

知恩院新門前

山城屋長治郎

加賀屋五郎兵衛

大黒屋伝兵衛

菊屋六右衛門

改ノ三拾四軒

同西之町

同右門前

富山屋かつ

近江屋源兵衛

宝寿組

栗田口今小路町

同大井手町

油小路通五条上町

同五条下ル二町目

千切屋六兵衛

釜屋彦兵衛

山崎屋庄三郎

橘屋源太郎

室町五条壱町下東へ入鍵屋町 五条通烏丸西へ入町

龜屋藤七

玉屋善兵衛

凡惣ノ四百拾五軒

此外在方質屋淀より嵯峨迄

同新町東江入

五条新町西へ入町

五組 軒数三拾六軒

松葉屋九良兵衛

鱗形屋喜兵衛

同町

仏具屋町五条下ル南より

近江屋九郎兵衛

金吹屋平兵衛

同五条下ル式丁目

室町通五条上ル町

井筒屋宗三郎

吉文字屋嘉兵衛

仏具屋町五条下ル町

室町五条下ル町

紅屋又兵衛

紅屋嘉兵衛

西洞院五条下ル

五条通西洞院西へ入町

錢屋治兵衛

舁屋嘉右衛門

天使突坂五条上ル町

五条通室町西へ入町

津国屋清兵衛

山崎屋甚右衛門

五条通西洞院西へ入町

新加入

大坂屋佐兵衛

西岡屋六兵衛

五条西洞院西へ入町

和泉屋甚兵衛

改ノ拾九軒

